

上毛かるたの①「紅葉に映える妙義山」で県民になじみ深い妙義山、その山域は安中市と富岡市、下仁田町にまたがっています。本市には最高峰の相馬岳(1,104m)のほか、ハンマーのようなユニークな形をした「丁須の頭」などがあり、年間を通じて多くの登山者が訪れています。一方で、あまり標高が高くないわりに切り立った岩や不明瞭なルートも多く、滑落や道迷いなどの遭難も多く発生しています。



▲▲ 遭難事故を未然に防ぐ

市は、山岳遭難を未然に防ぐため地元山岳会や警察、消防署、県などの協力のもと「安中市遭難者救援隊」を組織し、毎年春と秋の2回、市内の裏妙義山系などで登山道の点検・整備を実施しています。今回は、妙義山が紅葉シーズンを迎える直前の、昨年秋に行われた活動を紹介します。

11月9日(土)早朝、市役所松井田支所に集合した救援隊のメンバーは、標識や目印用のテープなど、登山道整備に必要な道具を持ち各登山口に向かいました。

今回の点検コースは、麻芋の滝の上流から丁須の頭を目指す「鍵沢」と、旧国民宿舎から丁須の頭に向かう「籠沢」、さらに旧国民宿舎から三方境を経由して林道に下る「巡視道・女道」の3つ。鎖やロープ技術が必要な場所もあり、注意しながらコースに入っていました。

